

議員派遣行政視察報告書

・視察期間 平成29年2月6日（月）～平成29年2月7日（火）1泊2日

・視察先 厚木市 あつぎこどもの森公園について
相模原市 道路通報アプリ「パッ！撮るん。」について

・視察議員 岩 下 彰
中 尾 孝 夫
河 崎 はじめ
花 岡 ゆたか

※上記の順に行政視察報告書を掲載しています。

行政視察報告書

議員 岩下 彰

■ 調査の期間 平成 29 年（2017 年）2 月 6 日(月) ～ 7 日(火)

■ 参加議員 岩下 彰 ・ 中尾 孝夫 ・ 河崎 はじめ ・ 花岡 ゆたか

■ 調査先及び調査事項

厚木市 ・ あつぎこどもの森公園について

議会事務局 議会総務課 課長 武藤 様
河川みどり部 公園緑地課 課長 福岡 様

相模原市 ・ 道路通報アプリ「パッ！撮るん。」について

議会局 次長 小峰 様
道路部 路政課 課長 金子 様

■ 感想・意見

・あつぎこどもの森公園について

現地を視察する。森の中を歩く日本一長い「森の空中回路」を歩くが、場所によっては高さ10mの所もあり、木々の見える様がとてもよい。新緑・紅葉の時であれば、とても癒されるだろう。長さ106mのすべり台は、老いも若きもと、童心にかえれた。時には小動物も見ることができるようであり、自然を実感できることはとてもよい。里山への関心興味がわき、将来によい財産となるであろう。人材育成にも役立つ施設である。

・道路通報アプリ「パッ！撮るん。」について

人口も多く、市域も広いとなれば、行政側のスタッフだけでは、十分に行き届いた目配りを補完するためには、市民の協力を得る手段としては、有効であろう。通報と対応との距離がより小さくなる努力が必要となってくる。行政のサービスを充実させていくよい手段である。

行政視察報告書

議員 中尾 孝夫

■ 調査の期間 平成 29 年（2017 年）2 月 6 日(月) ～ 7 日(火)

■ 参加議員 岩下 彰 ・ 中尾 孝夫 ・ 河崎 はじめ ・ 花岡 ゆたか

■ 調査先及び調査事項

厚木市 ・ あつぎこどもの森公園について

議会事務局 議会総務課 課長 武藤 様
河川みどり部 公園緑地課 課長 福岡 様

相模原市 ・ 道路通報アプリ「パッ！撮るん。」について

議会局 次長 小峰 様
道路部 路政課 課長 金子 様

■ 感想・意見

・あつぎこどもの森公園について

用地を平成5年に約300億円で買収し、一部を国体施設の運動公園（16ha、競技場、体育館、プール等）として整備、利用。

その後、8haを拡張事業（野球場、テニスコート等）として計画したが、貴重動植物の発見により同計画を凍結。自然を利用した子供の森公園に計画変更して、平成25～27年度に10億円超を投資して整備。28年3月開園で17.7万人が入場（無料）。管理をコンサル会社に年間2,000万円で委託している（2人管理体制）。

自然林を観察するための空中回廊、滑り台等を設けて特徴付けしているが、今後の施設増強の予定はなく、利用者の減少が予想される。

いずれ老朽化などに維持管理費の増加が予想される。

バブル期の壮大な計画だが、残りの拡張区域29ha（山林）の利用も含め課題。

本市の旧仁川ピクニックセンター用地の活用方法として参考になりにくい。

・道路通報アプリ「パッ！撮るん。」について

スマートホンを利用し、道路破損箇所などを写真撮影して通報するシステムを2年前に導入。このことにより補修が迅速になった。開発・運用費用は5年間業者負担。業者にとって広告効果や他市拡張のメリットあり。

従来 of 電話による通報件数は減少しておらず、市の人員や経費等に変動なし。

市民等によるスマホ活用が必須だが、GPSの高度利用による自動把握に発展させることが今後のカギとなるだろう。

行政視察報告書

議員 河崎 はじめ

■ 調査の期間 平成 29 年（2017 年）2 月 6 日（月）～ 7 日（火）

■ 参加議員 岩下 彰 ・ 中尾 孝夫 ・ 河崎 はじめ ・ 花岡 ゆたか

■ 調査先及び調査事項

厚木市 ・ あつぎこどもの森公園について

議会事務局 議会総務課 課長 武藤 様
河川みどり部 公園緑地課 課長 福岡 様

相模原市 ・ 道路通報アプリ「パッ！撮るん。」について

議会局 次長 小峰 様
道路部 路政課 課長 金子 様

■ 感想・意見

・あつぎこどもの森公園について

厚木市本庁から離れている場所に有るにも拘わらず、現地事務所にて担当課長や議会事務局課長の出向を受けて、大変恐縮しました。

その現地事務所にて映像を利用した丁寧な説明をいただいた後、実際の子どもの森公園を視察させていただきました。

樹幹に通された空中回廊や、日本一長い「森のすべり台」を実際に体験して、大人でも楽しいので、こども達なら本当に喜ぶだろうと思いました。

745メートルの回廊や、106メートルのすべり台は、他では絶対体験出来ないものなので、リピートにもつながりやすいと思いました。

本会議でも提案しましたが、本市でも甲山や周辺の森林公園を活用して、こども達が喜んで、リピートにつながるような一工夫した遊び場を考えるべきだと思います。

・道路通報アプリ「パッ！撮るん。」について

スマートフォンのアプリケーションを利用して、道路等の破損箇所等に係る市民から市役所への通信手段を追加するという事業です。

これまで、市民からの道路の破損や整備依頼については、電話やメールが中心で、実際の現場位置や状況に不明瞭な部分が多く、その確認に時間や労力の多くを費やす必要がありました。

しかし、このアプリケーションは、現場位置や状況を具体的に伝えることが出来、合理的にできています。

私は、現状、市民からの依頼を受けた場合、それを地図にマーカーして担当部署まで持参して状況を説明して、整備依頼等を行っています。

本市でも、このようなアプリケーションが採用されると、随分と日常業務が合理化できると思いました。

行政視察報告書

議員 花岡 ゆたか

■ 調査の期間 平成 29 年（2017 年）2 月 6 日(月) ～ 7 日(火)

■ 参加議員 岩下 彰 ・ 中尾 孝夫 ・ 河崎 はじめ ・ 花岡 ゆたか

■ 調査先及び調査事項

厚木市 ・ あつぎこどもの森公園について

相模原市 ・ 道路通報アプリ「パッ！撮るん。」について

1. 神奈川県厚木市

人口 22.5 万人 面積 93.84 平方 km



Map data ©2017 Google

厚木市は、相模平野の北部に位置し、市域の東端は相模川となっている。市域南部と東部には住宅街が広がり、東京・横浜のベッドタウンとなっている。市域北部と西部は、農地も多く残る丘陵部であり、豊かな自然も残っている。

■ 概要

あつぎこどもの森公園は、厚木市荻野運動公園の北側に隣接している。平成5年に供用開始された、荻野運動公園の拡張区域として、平成5年に野球場・テニスコート・サッカーグラウンド等の整備計画がまとめられたが、計画地域内にオオタカの営巣が確認され、自然体験活動を担う新たな拠点として計画が変更され整備された。平成28年3月に開園。

■ ポイント

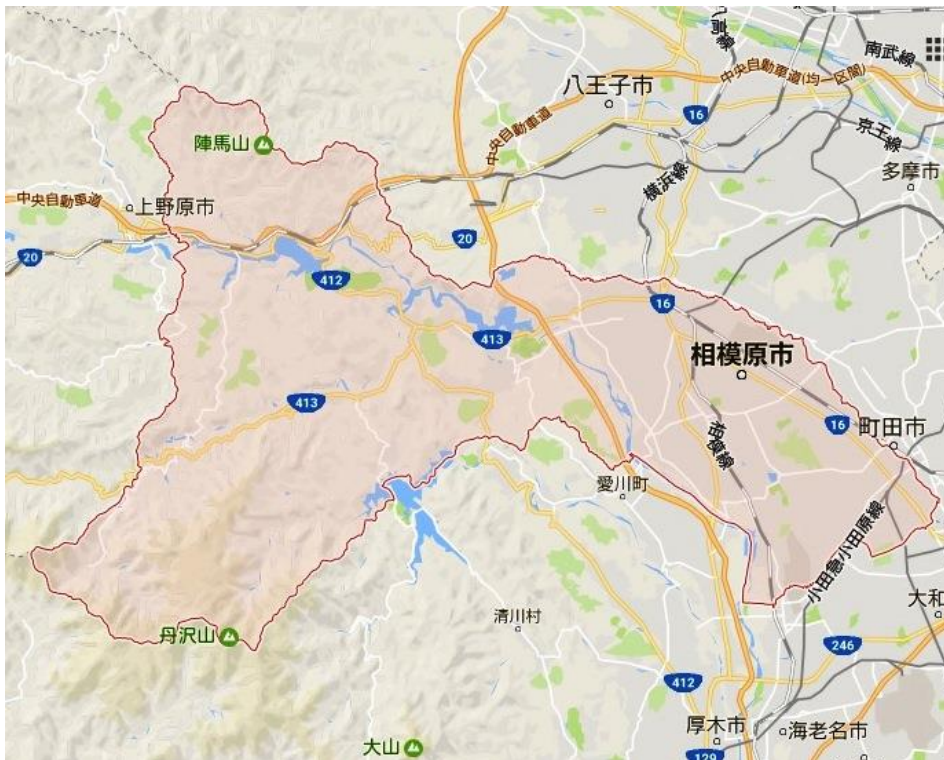
- ・整備コンセプトは、「遊んで学んで元気になれる自然体験活動の新たな拠点」
- ・平成28年3月12日の開園から平成29年1月末までの入園者数は、約17万7,000人、月平均1万6,000人。来園者のほとんどが家族連れで、その他に幼稚園の団体の来園が数回あった。
- ・平成22年に基本構想がまとまり、平成25年から平成27年までの3ヶ年で総事業費約10.5億円で整備された。
- ・運営体制は、市公園緑地課と株式会社オリエンタルコンサルタンツ、あつぎこどもの森クラブの三者体制であり、委託費として市から株式会社オリエンタルコンサルタンツに年間約2,000万円支払われている。(常駐職員は一日2名)
- ・あつぎこどもの森クラブは、自然体験活動を通じてたくましい子どもたちを育てる取り組みを推進することを目的として設立された市民団体であり、この施設で自然体験・農体験・冒険活動等のプログラムを実施している。
- ・生物多様性との整合の為に、里地里山の活用を考えている。人の手が入らなくなったことで荒廃が進む計画地では、土が堆積して乾燥化が進んでいた。質や機能が低下している谷戸部の湿地や手入れ不足により劣化し、暗くなった森林へ再び手を入れることで、多様な生き物の生息・生育環境の再生を図っている。
- ・公園内を一周するように作られた全長745mの「空中回廊」は、地上から最高10m以上の高さで公園内を散策できる。
- ・日本一長い森の滑り台。長さ106m。ローラー式ではなく、超高分子量ポリエチレン製。
- ・こどもの森農園第一・第二では、良好な湿地環境を再生させ、そこに適応する多くの生き物に生息・生育環境与えている。

厚木市対応者

議会事務局 議会総務課 課長 武藤 様
河川みどり部 公園緑地課 課長 福岡 様

2. 神奈川県相模原市

人口 72.1 万人 面積 328.82 平方 km



Map data ©2017 Google

相模原市は、相模原平野の北端部と相模原台地に位置し、2007年に津久井郡藤野町と城山町とを編入合併し、2010年に政令指定都市に移行。人口は市東部の平野部に集中し、市西部は、多くの自然が残った山間部である。首都圏中央連絡自動車道と津久井広域道路の整備が進み、リニア中央新幹線の駅設置が決定している。

■ 概要

相模原市では、管理道路延長約 2,400km（西宮市は約 1,000km）を管理するにあたり、市によるパトロールではどうしても見落としが出てしまい、また、市民からの通報の場合、位置の特定や破損状況の把握が困難なケースがあり、このアプリケーションを導入することとした。アプリケーションの導入により、破損箇所・状況等の正確な把握ができ、迅速な対応につながっている。

■ ポイント

- ・導入にあたっては、千葉市の「ちばレポ」を参考とした。
- ・平成 26 年 3 月定例議会で議員から「アプリ開発」に関する質問があり、それ以降導入の検討を開始し、平成 26 年度にアプリ開発、平成 27 年 4 月に運用開始。
- ・アプリ開発にあたっては、市内業者である株式会社アーバングラフィックとの協働開発として、開発費とランニングコストを株式会社アーバングラフィックの負担とし、市はアプリの PR を通じて株式会社アーバングラフィックを PR するという、ユニークなアプリの開発手法を取っている。（参考：開発費 300 万円・ランニングコスト 40 万円/年）
- ・平成 29 年 1 月末のダウンロード数は、約 5,000 件。通報件数は約 1,000 件。

- ・平成 28 年 1 月に多くのメディアで、「パッ！撮るん。」が取り上げられ、ダウンロード数・通報数・行政視察数が増加。
- ・平成 27 年度の市民からの通報件数は約 6,600 件、このうち電話による通報が約 4,000 件、「パッ！撮るん。」による通報は約 800 件となっている。今後、「パッ！撮るん。」の周知を強化しアプリケーションの改良も行い、「パッ！撮るん。」による通報件数割合を 30% 以上にすることを目標としている。
- ・市との協定により株式会社アーバングラフィックは、本アプリケーションの二次利用ができ、既に他自治体での導入実績がある。
- ・アプリケーションの使用方法は、まず対象箇所の近景と遠景の 2 枚の写真を撮り、次にスマートフォンの GPS による位置情報から位置を確認・修正し、具体的な不具合の状況を選択項目から選択して送信すると言った、いたってシンプルとなっている。
- ・市の対応状況を送信者に回答することはないが、今までに「通報したのに対応できていない！」、「いつになったら対応するのか？」、「対応が遅い！」、「アプリが使いにくい！」等の苦情は一件もない。
- ・「パッ！撮るん。」は、道路の保守管理の為の通報システムであるが、関係ない通報が来る場合もある。その場合は各所管課にその対応を振っている。

相模原市対応者

議会局 次長 小峰 様

道路部 路政課 課長 金子 様

■ 感想・意見

・あつぎこどもの森公園について

希少動物であるオオタカの営巣が確認された為、前計画を白紙撤回し、希少植物であるミズニラが湿地帯で確認された為、園内の管理道路のコースを変更する等、環境負荷軽減に対する配慮が大きく驚きである。(市民の自然保護関連のNPOが計画段階からワーキンググループに加わっており、その影響が大きいと思われる。)

その他にも、管理棟の位置を敷地南端に移動させ、2基設置予定だった滑り台を1基にする等、当初計画案から変更されている。

団体利用がほとんどないにも関わらず、平均して月に約1万6,000人もの来園がある。これは、運営団体のあつぎこどもの森クラブの行っている様々なプログラムの魅力が大きいからだと考えられる。

・道路通報アプリ「パッ！撮るん。」について

市内業者である株式会社アーバングラフィックとの協働開発として、市が一切の費用負担をしない事業モデルは、非常にユニークである。「パッ！撮るん。」に関わる全ての物に株式会社アーバングラフィックの社名やロゴがあり、株式会社アーバングラフィックも他自治体でのアプリ開発に関わるなど、ウィンウインの事業モデルと言える。(説明の最後には、みやたんを画面に入れた西宮市バージョンの「パッ！撮るん。」のセールスもあった。)

スマートフォン用のアプリケーションのため、高齢者への普及が大きな課題だと思われる。(破損箇所に気付き通報するのは、現役世代より自治会活動などを行っている高齢者の方がそもそも多いと考えられる。)

道路の保守管理と関係ない通報があるとの事だったが、不法投棄物や公園での不具合など、市への通報すべてを扱うアプリにしても良いのではないかと考える。